

椎の木 復刻版概要

- ◎巻数 全11巻・別冊1
- ◎体裁 A5判・上製 総約4、200頁
- ◎原本 椎の木社発行 昭和7年1月〜昭和11年6月 全55冊を合本にて復刻
- ◎別冊 別冊1 1冊
- ◎別冊 別冊2 1冊
- ◎別冊 別冊3 1冊
- ◎別冊 別冊4 1冊
- ◎別冊 別冊5 1冊
- ◎別冊 別冊6 1冊
- ◎別冊 別冊7 1冊
- ◎別冊 別冊8 1冊
- ◎別冊 別冊9 1冊
- ◎別冊 別冊10 1冊
- ◎別冊 別冊11 1冊
- ◎別冊 別冊12 1冊
- ◎別冊 別冊13 1冊
- ◎別冊 別冊14 1冊
- ◎別冊 別冊15 1冊
- ◎別冊 別冊16 1冊
- ◎別冊 別冊17 1冊
- ◎別冊 別冊18 1冊
- ◎別冊 別冊19 1冊
- ◎別冊 別冊20 1冊
- ◎別冊 別冊21 1冊
- ◎別冊 別冊22 1冊
- ◎別冊 別冊23 1冊
- ◎別冊 別冊24 1冊
- ◎別冊 別冊25 1冊
- ◎別冊 別冊26 1冊
- ◎別冊 別冊27 1冊
- ◎別冊 別冊28 1冊
- ◎別冊 別冊29 1冊
- ◎別冊 別冊30 1冊
- ◎別冊 別冊31 1冊
- ◎別冊 別冊32 1冊
- ◎別冊 別冊33 1冊
- ◎別冊 別冊34 1冊
- ◎別冊 別冊35 1冊
- ◎別冊 別冊36 1冊
- ◎別冊 別冊37 1冊
- ◎別冊 別冊38 1冊
- ◎別冊 別冊39 1冊
- ◎別冊 別冊40 1冊
- ◎別冊 別冊41 1冊
- ◎別冊 別冊42 1冊
- ◎別冊 別冊43 1冊
- ◎別冊 別冊44 1冊
- ◎別冊 別冊45 1冊
- ◎別冊 別冊46 1冊
- ◎別冊 別冊47 1冊
- ◎別冊 別冊48 1冊
- ◎別冊 別冊49 1冊
- ◎別冊 別冊50 1冊
- ◎別冊 別冊51 1冊
- ◎別冊 別冊52 1冊
- ◎別冊 別冊53 1冊
- ◎別冊 別冊54 1冊
- ◎別冊 別冊55 1冊

澤 正宏(福島大学名誉教授)
山田兼士(大阪芸術大学教授)



配本	巻数・価格・刊行時期	復刻版巻数	内容
第1回配本	全3巻 本体54,000円+税 2017年7月刊行 ISBN978-4-908976-38-4	第1巻	第1巻第1号〜第4号
		第2巻	第1巻第5号〜第8号
		第3巻	第1巻第9号〜第12号
		別冊1	別冊1 1冊
第2回配本	全3巻 本体54,000円+税 2017年11月刊行 ISBN978-4-908976-43-8	第4巻	第2巻第1号〜第4号
		第5巻	第2巻第5号〜第8号
		第6巻	第2巻第9号〜第12号
第3回配本	全2巻 本体36,000円+税 2018年4月刊行 ISBN978-4-908976-47-6	第7巻	第3巻第1号〜第6号
		第8巻	第3巻第7号〜第12号+臨時号1冊
第4回配本	全3巻 本体54,000円+税 2018年9月刊行 ISBN978-4-908976-50-6	第9巻	第4巻第1号〜第6号 ※第4巻第2号は発行せず
		第10巻	第4巻第7号〜第12号+臨時号1冊
		第11巻	第5巻第1号〜第6号

関連図書のご案内

初期『VIKING』復刻版
VIKING CLUB刊「1947年〜1953年」
◎巻数 全7巻・別冊1
◎別冊 別冊1 1冊
◎別冊 別冊2 1冊
◎別冊 別冊3 1冊
◎別冊 別冊4 1冊
◎別冊 別冊5 1冊
◎別冊 別冊6 1冊
◎別冊 別冊7 1冊
◎別冊 別冊8 1冊
◎別冊 別冊9 1冊
◎別冊 別冊10 1冊
◎別冊 別冊11 1冊
◎別冊 別冊12 1冊
◎別冊 別冊13 1冊
◎別冊 別冊14 1冊
◎別冊 別冊15 1冊
◎別冊 別冊16 1冊
◎別冊 別冊17 1冊
◎別冊 別冊18 1冊
◎別冊 別冊19 1冊
◎別冊 別冊20 1冊
◎別冊 別冊21 1冊
◎別冊 別冊22 1冊
◎別冊 別冊23 1冊
◎別冊 別冊24 1冊
◎別冊 別冊25 1冊
◎別冊 別冊26 1冊
◎別冊 別冊27 1冊
◎別冊 別冊28 1冊
◎別冊 別冊29 1冊
◎別冊 別冊30 1冊
◎別冊 別冊31 1冊
◎別冊 別冊32 1冊
◎別冊 別冊33 1冊
◎別冊 別冊34 1冊
◎別冊 別冊35 1冊
◎別冊 別冊36 1冊
◎別冊 別冊37 1冊
◎別冊 別冊38 1冊
◎別冊 別冊39 1冊
◎別冊 別冊40 1冊
◎別冊 別冊41 1冊
◎別冊 別冊42 1冊
◎別冊 別冊43 1冊
◎別冊 別冊44 1冊
◎別冊 別冊45 1冊
◎別冊 別冊46 1冊
◎別冊 別冊47 1冊
◎別冊 別冊48 1冊
◎別冊 別冊49 1冊
◎別冊 別冊50 1冊
◎別冊 別冊51 1冊
◎別冊 別冊52 1冊
◎別冊 別冊53 1冊
◎別冊 別冊54 1冊
◎別冊 別冊55 1冊
◎別冊 別冊56 1冊
◎別冊 別冊57 1冊
◎別冊 別冊58 1冊
◎別冊 別冊59 1冊
◎別冊 別冊60 1冊
◎別冊 別冊61 1冊
◎別冊 別冊62 1冊
◎別冊 別冊63 1冊
◎別冊 別冊64 1冊
◎別冊 別冊65 1冊
◎別冊 別冊66 1冊
◎別冊 別冊67 1冊
◎別冊 別冊68 1冊
◎別冊 別冊69 1冊
◎別冊 別冊70 1冊
◎別冊 別冊71 1冊
◎別冊 別冊72 1冊
◎別冊 別冊73 1冊
◎別冊 別冊74 1冊
◎別冊 別冊75 1冊
◎別冊 別冊76 1冊
◎別冊 別冊77 1冊
◎別冊 別冊78 1冊
◎別冊 別冊79 1冊
◎別冊 別冊80 1冊
◎別冊 別冊81 1冊
◎別冊 別冊82 1冊
◎別冊 別冊83 1冊
◎別冊 別冊84 1冊
◎別冊 別冊85 1冊
◎別冊 別冊86 1冊
◎別冊 別冊87 1冊
◎別冊 別冊88 1冊
◎別冊 別冊89 1冊
◎別冊 別冊90 1冊
◎別冊 別冊91 1冊
◎別冊 別冊92 1冊
◎別冊 別冊93 1冊
◎別冊 別冊94 1冊
◎別冊 別冊95 1冊
◎別冊 別冊96 1冊
◎別冊 別冊97 1冊
◎別冊 別冊98 1冊
◎別冊 別冊99 1冊
◎別冊 別冊100 1冊

山河【復刻版】

山河社他刊「1948年〜1961年」
◎巻数 全3巻・別冊1・別冊1
◎別冊 別冊1 1冊
◎別冊 別冊2 1冊
◎別冊 別冊3 1冊
◎別冊 別冊4 1冊
◎別冊 別冊5 1冊
◎別冊 別冊6 1冊
◎別冊 別冊7 1冊
◎別冊 別冊8 1冊
◎別冊 別冊9 1冊
◎別冊 別冊10 1冊
◎別冊 別冊11 1冊
◎別冊 別冊12 1冊
◎別冊 別冊13 1冊
◎別冊 別冊14 1冊
◎別冊 別冊15 1冊
◎別冊 別冊16 1冊
◎別冊 別冊17 1冊
◎別冊 別冊18 1冊
◎別冊 別冊19 1冊
◎別冊 別冊20 1冊
◎別冊 別冊21 1冊
◎別冊 別冊22 1冊
◎別冊 別冊23 1冊
◎別冊 別冊24 1冊
◎別冊 別冊25 1冊
◎別冊 別冊26 1冊
◎別冊 別冊27 1冊
◎別冊 別冊28 1冊
◎別冊 別冊29 1冊
◎別冊 別冊30 1冊
◎別冊 別冊31 1冊
◎別冊 別冊32 1冊
◎別冊 別冊33 1冊
◎別冊 別冊34 1冊
◎別冊 別冊35 1冊
◎別冊 別冊36 1冊
◎別冊 別冊37 1冊
◎別冊 別冊38 1冊
◎別冊 別冊39 1冊
◎別冊 別冊40 1冊
◎別冊 別冊41 1冊
◎別冊 別冊42 1冊
◎別冊 別冊43 1冊
◎別冊 別冊44 1冊
◎別冊 別冊45 1冊
◎別冊 別冊46 1冊
◎別冊 別冊47 1冊
◎別冊 別冊48 1冊
◎別冊 別冊49 1冊
◎別冊 別冊50 1冊
◎別冊 別冊51 1冊
◎別冊 別冊52 1冊
◎別冊 別冊53 1冊
◎別冊 別冊54 1冊
◎別冊 別冊55 1冊
◎別冊 別冊56 1冊
◎別冊 別冊57 1冊
◎別冊 別冊58 1冊
◎別冊 別冊59 1冊
◎別冊 別冊60 1冊
◎別冊 別冊61 1冊
◎別冊 別冊62 1冊
◎別冊 別冊63 1冊
◎別冊 別冊64 1冊
◎別冊 別冊65 1冊
◎別冊 別冊66 1冊
◎別冊 別冊67 1冊
◎別冊 別冊68 1冊
◎別冊 別冊69 1冊
◎別冊 別冊70 1冊
◎別冊 別冊71 1冊
◎別冊 別冊72 1冊
◎別冊 別冊73 1冊
◎別冊 別冊74 1冊
◎別冊 別冊75 1冊
◎別冊 別冊76 1冊
◎別冊 別冊77 1冊
◎別冊 別冊78 1冊
◎別冊 別冊79 1冊
◎別冊 別冊80 1冊
◎別冊 別冊81 1冊
◎別冊 別冊82 1冊
◎別冊 別冊83 1冊
◎別冊 別冊84 1冊
◎別冊 別冊85 1冊
◎別冊 別冊86 1冊
◎別冊 別冊87 1冊
◎別冊 別冊88 1冊
◎別冊 別冊89 1冊
◎別冊 別冊90 1冊
◎別冊 別冊91 1冊
◎別冊 別冊92 1冊
◎別冊 別冊93 1冊
◎別冊 別冊94 1冊
◎別冊 別冊95 1冊
◎別冊 別冊96 1冊
◎別冊 別冊97 1冊
◎別冊 別冊98 1冊
◎別冊 別冊99 1冊
◎別冊 別冊100 1冊

われらの詩【復刻版】

われらの詩の会刊「1949年〜1953年」
◎巻数 全2巻・別冊1・付録1
◎別冊 別冊1 1冊
◎別冊 別冊2 1冊
◎別冊 別冊3 1冊
◎別冊 別冊4 1冊
◎別冊 別冊5 1冊
◎別冊 別冊6 1冊
◎別冊 別冊7 1冊
◎別冊 別冊8 1冊
◎別冊 別冊9 1冊
◎別冊 別冊10 1冊
◎別冊 別冊11 1冊
◎別冊 別冊12 1冊
◎別冊 別冊13 1冊
◎別冊 別冊14 1冊
◎別冊 別冊15 1冊
◎別冊 別冊16 1冊
◎別冊 別冊17 1冊
◎別冊 別冊18 1冊
◎別冊 別冊19 1冊
◎別冊 別冊20 1冊
◎別冊 別冊21 1冊
◎別冊 別冊22 1冊
◎別冊 別冊23 1冊
◎別冊 別冊24 1冊
◎別冊 別冊25 1冊
◎別冊 別冊26 1冊
◎別冊 別冊27 1冊
◎別冊 別冊28 1冊
◎別冊 別冊29 1冊
◎別冊 別冊30 1冊
◎別冊 別冊31 1冊
◎別冊 別冊32 1冊
◎別冊 別冊33 1冊
◎別冊 別冊34 1冊
◎別冊 別冊35 1冊
◎別冊 別冊36 1冊
◎別冊 別冊37 1冊
◎別冊 別冊38 1冊
◎別冊 別冊39 1冊
◎別冊 別冊40 1冊
◎別冊 別冊41 1冊
◎別冊 別冊42 1冊
◎別冊 別冊43 1冊
◎別冊 別冊44 1冊
◎別冊 別冊45 1冊
◎別冊 別冊46 1冊
◎別冊 別冊47 1冊
◎別冊 別冊48 1冊
◎別冊 別冊49 1冊
◎別冊 別冊50 1冊
◎別冊 別冊51 1冊
◎別冊 別冊52 1冊
◎別冊 別冊53 1冊
◎別冊 別冊54 1冊
◎別冊 別冊55 1冊
◎別冊 別冊56 1冊
◎別冊 別冊57 1冊
◎別冊 別冊58 1冊
◎別冊 別冊59 1冊
◎別冊 別冊60 1冊
◎別冊 別冊61 1冊
◎別冊 別冊62 1冊
◎別冊 別冊63 1冊
◎別冊 別冊64 1冊
◎別冊 別冊65 1冊
◎別冊 別冊66 1冊
◎別冊 別冊67 1冊
◎別冊 別冊68 1冊
◎別冊 別冊69 1冊
◎別冊 別冊70 1冊
◎別冊 別冊71 1冊
◎別冊 別冊72 1冊
◎別冊 別冊73 1冊
◎別冊 別冊74 1冊
◎別冊 別冊75 1冊
◎別冊 別冊76 1冊
◎別冊 別冊77 1冊
◎別冊 別冊78 1冊
◎別冊 別冊79 1冊
◎別冊 別冊80 1冊
◎別冊 別冊81 1冊
◎別冊 別冊82 1冊
◎別冊 別冊83 1冊
◎別冊 別冊84 1冊
◎別冊 別冊85 1冊
◎別冊 別冊86 1冊
◎別冊 別冊87 1冊
◎別冊 別冊88 1冊
◎別冊 別冊89 1冊
◎別冊 別冊90 1冊
◎別冊 別冊91 1冊
◎別冊 別冊92 1冊
◎別冊 別冊93 1冊
◎別冊 別冊94 1冊
◎別冊 別冊95 1冊
◎別冊 別冊96 1冊
◎別冊 別冊97 1冊
◎別冊 別冊98 1冊
◎別冊 別冊99 1冊
◎別冊 別冊100 1冊

三人社

〒606-8316
京都市左京区吉田二本松町4 白亜荘
電話 075-762-0368
FAX 075-762-0369

※図書館様・書店様へ
小社は少数数出版のため大取次の口座はございません。ご注文は直接上記までお申し込みください。

『詩と詩論』と『四季』の時代をつなぐ水脈として
主知主義の作品をより洗練させ、純粹詩への昇華を試み、
若き才能を育てた幻の詩誌、全号復刻！

主要執筆陣

- 阿部 保
- 阿部 知二
- 安西冬衛
- 伊東静雄
- 伊藤 整
- 乾 直恵
- 井上多喜三郎
- 内田 忠
- 宇野浩二
- 江間章子
- 小熊秀雄
- 柏木俊三
- 川口敏男
- 北園克衛
- 鏡正太郎
- 小村定吉
- 草野心平
- 楠田一郎
- 高祖 保
- 小高根二郎
- 坂口安吾
- 阪本越郎
- 左川 ちか
- 莊原照子
- 神保光太郎
- 杉山平一
- 高木恭造
- 瀧口武士
- 竹中 郁
- 田中克己
- 田中冬二
- 中原中也
- 西川 満
- 西脇順三郎
- 萩原朔太郎
- 濱名与志春
- 春山行夫
- 菱山修三
- 日夏耿之介
- 堀口 大学
- 堀 辰雄
- 丸山 薫
- 丸山 豊
- 三好達治
- 村野四郎
- 室生犀星
- 百田宗治
- 保田與重郎
- 山中富美子
- 山内義雄
- 山村西之助

第三次

椎の木

復刻版 全11巻・別冊1

百田宗治主宰
1932(昭和7)年〜1936(昭和11)年



三人社

限定70部

- ▼解題 外村 彰
- ▼巻数 全11巻+別冊1
- ▼推薦 國生雅子・澤 正宏・山田兼士

第三次『椎の木』復刻版 刊行に際して

外村 彰（呉工業高等専門学校教授）

第三次『椎の木』は昭和七年一月に百田宗治が主宰して創刊され、新散文詩運動などのモダニズム（レスプリヌーヴォー）の機運に乗って当時の詩壇でも大いに注目されたことで知られる。先行する『詩と詩論』等に倣い、あたらしい主知的な抒情世界の構築を目指した若い才能を多く輩出したが、曲折を経たのち昭和十一年十二月に発行された第五年第一号をもって廃刊した。

同誌は昭和十年三月十二月の間、大阪在住の山村西之助が編集をし、「第四次『椎の木』を謳ったもの」の告知主義の詩風から後退した。そうして編集所が再び東京の百田宅に移った昭和十一年一月以降——（第五次）『椎の木』とも称し得る——の発行状況は、現在においても未詳のままであった（昭和七年から十年までの号は諸機関に所蔵）。今日まで全号を網羅した総目次がなかったのもそれゆえである。

先般、同人であった阿部保の保管していた『椎の木』を調査する機会があり、創刊号から昭和十一年に発行された第五巻第一〜六号までを見し得た。同年第七、九、一〇号は未見ながら、別の機会に見てきた第八、一一号を確認したところ、それらは百田が同時期に児童綴方誌として発行した『工程』（のち『綴方学校』）のPRパンフレットの類と推察された。このため第五年第六号で『椎の木』は詩誌としての役割を終えていたと考えるに至った。よってここに、詩誌としての全貌解明に資するべく、解題・総目次・索引を付した第三次『椎の木』全五十五冊を、復刻刊行する。



創刊号表紙

推薦のことば

新発見資料続々、戦時下モダニズム系現代詩の宝庫

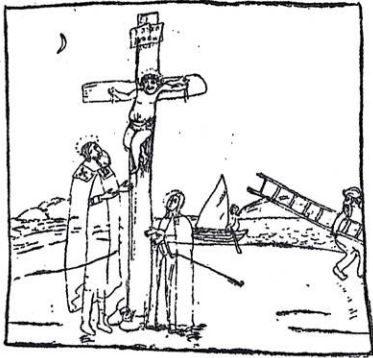
澤 正宏（福島大学名誉教授）

昭和七、八（一九三二、三）年頃をピークに、プロレタリア系、モダニズム系といった昭和初期の現代詩の二大潮流は、厳しい言論弾圧の下で退潮を余儀なくされていった。第三次『椎の木』はちょうどこの時期から日中戦争（昭和十二年）前年までに出された、換言すれば、そうした過渡期を「詩」に関わって表現していった詩誌である。

そうした事情の下で、この詩誌には萩原朔太郎、室生犀星など旧世代の詩人の他、小熊秀雄、田木繁などプロレタリア系の詩人、小高根二郎、神保光太郎など後に国粹主義に染まっていく詩人も参加するが、中心はやはり春山行夫、西脇順三郎、安西冬衛、最初に編輯兼発行人を務めた百田宗治、若い世代で楠田一郎、濱名与志春、阿部保、荘原照子などモダニズム系の詩人であった。ところが、戦時下の一つの過渡期の「詩」の表現を刻印した第三次『椎の木』の全貌は、今日までこの詩誌の所在不明で明らかにされずに来ていた。

『現代詩誌総覧④』（平成八年）の藤本寿彦氏の調査によれば、計三十一冊（昭和一〇年八月までの調査）だった第三次『椎の木』は、この度の全五十五冊復刻で幻の詩誌の姿が見えてきたのである。欠号だった詩誌からの新発見には、前述した春山や西脇、楠田、濱名などの詩があり、北園克衛などの詩論もある。また、左川ちか追悼記事や中原中也のランボー訳の初出も貴重で、第三次『椎の木』復刻版が詩の愛読者や研究者にとっての宝庫になることを期待するものである。

内容見本



文学雑談

室生犀星

美しい馬鹿

小林秀雄君の「オフニヤ遺文」のなかに圓栗が梯子

れを食べてしまひ、そして食べたあとから悲しくなつたといふ一章がある。莫測たことを書いたものであるが、事實は決して莫測たことではなく、文學といふものは何時もこんな短かい間に微妙な邪氣なさを示すものであることを證據立ててゐる。

オフニヤ遺文の作者にはこんな面白いことを書く下地が出来てゐる。うまくて、そのうまさ小利巧で讀ませる作品の多い時に、かういふ詩の出来をくなくないやうな面白い表現に出會ふと、僕は僕に近い知をさる作者のゐることに愉快を感じるものである。

文學といふものはずば抜けた聰明さのなかに、並々ならぬ馬鹿げたところのあるものが、矢張り親しまれる。人間の味ひ深いもの、利巧で才氣騰つた人物よりも、少々大馬鹿氣風のある人間ほど面白い、支那の民族性のなかにこの馬鹿氣風があり、佛蘭西や米國人に妙ない、支那がその馬鹿氣風を利用してゐる聯盟では馬鹿も馬鹿にならない狡猾によりを戻してゐる。文學の馬鹿氣風と



左川ちか追悼

手筒 萩原朔太郎

手筒 堀口 大學

手筒 竹中 郁

左川ちか氏は、最近詩壇に於ける女流詩人の一人者で、明星的地位に上つた人であつた。この人が死んだとは、何物にもかへがたく惜しい氣がする。

左川ちか氏に會つた記憶はありません。（勿論會などの席下で會つたことの二度や三度はある筈ですが）作品を通じて、この人は發展性のある魂だと思つてゐまし

左川ちかが亡くなられたのをきいて、惜しい人を亡くしたものだと思ふ。さらでに寂しい女流

神秘の片鱗

高祖 保

一夜、暴風が怒つた。湖に汽船が沈んだ。

朝、マストだけが湖面に両手をさしあげてゐる。それは私の双の手に似て、空な足振きを仕盡して、倦い嚴肅のしづもりに返つたといつたあたりさま。

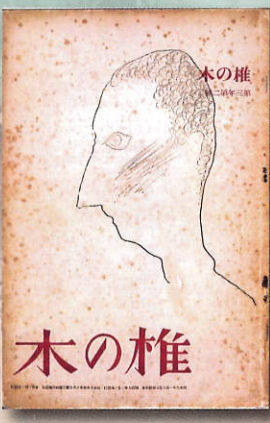
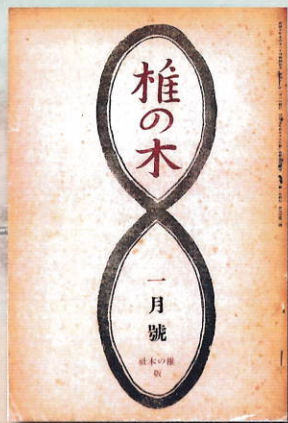
けふも湖のほとりにあつて、追はれるものごとく、私は右肩片腕しながら思ひ索めた。二本のマストは微風を呼んで、湖面に二個の波紋を放つてゐる。あの下に、汽船はとらへ難い空を追ひながら、青い睡りを含んでゐるだらう。それに似て索めるものは遠く遙かに捉へがたい。それは遂に何であらう。むなしくうち頭ふ、掌とゆびと！ ひと日は思惟の彷彿につかれる。

人間の運命について	ロレンス	伊藤 整
海の天使	歌ノワリス	阪本 越郎
日々の歌を持ちて	……	中山省三郎
仇ゆるもの句	……	内田 忠
夏のこゑ	……	小澤 豊吉
……	……	吉岡 禪寺洞
……	……	左川 ちか
……	……	同
……	……	堀口 大學
……	……	萩原 朔太郎
……	……	竹中 郁
……	……	北園 克衛
……	……	春山 行夫
……	……	衣巻 省三
……	……	山中 富美子
……	……	江間 章子
……	……	高祖 保
……	……	乾 直 恵
……	……	山村 西之助
……	……	阪本 越郎
……	……	西脇 順三郎
……	……	阿部 保
……	……	小高根 二郎
……	……	高木 恭造
……	……	山村 西之助
……	……	萩原 朔太郎
……	……	宇野 浩二

第三次「椎の木」の時代

國生雅子（福岡大学教授）

百田宗治は雑誌の編集や詩書の刊行に並々ならぬ熱情と精力を注ぎ、新人の発掘にも大きな役割を果たした。第三次「椎の木」は、彼の苗床から育った新鋭たちと、朔太郎、犀星といった大御所、そして若い同人たちの作品が目次に並び、雑誌としてのクオリティの維持と若手育成という、時に相反するミッションを見事にクリアしている。特に創刊当初の一九三二年から一九三四年にかけては「椎の木」のハイ・クオリティ版として「尺牘」「苑」も刊行され、詩壇に大きな存在感を示した。しかし同人制からアンデパンダン制に移行し、一九三五年には編集が大阪の山村西之助の手に移り、一方乾直恵らは東京で「苑」の名を受け継いだ雑誌を刊行するなど、第三次「椎の木」の盛時は長くは続かなかった。児童詩、綴り方へと関心を移した百田であったが、最後の年一九三六年には編集に復帰し、「椎の木」らしい誌面が取り戻された。だが、この雑誌が育てた女性詩人、左川ちかの夭折。彼女の追悼号となった一九三六年三月号が実質最後の「椎の木」と言えるのではなからうか。この後は三〇ページほどの薄い雑誌を何とか世に送り、やがて消滅してしまふ。既にマイクロ版や復刻版で読むことが可能な「尺牘」「苑」に、このたび復刻された第三次「椎の木」を重ねることにより、詩に憑かれた人々が生きた一つの時代の下キムメンタリーが完成したのである。



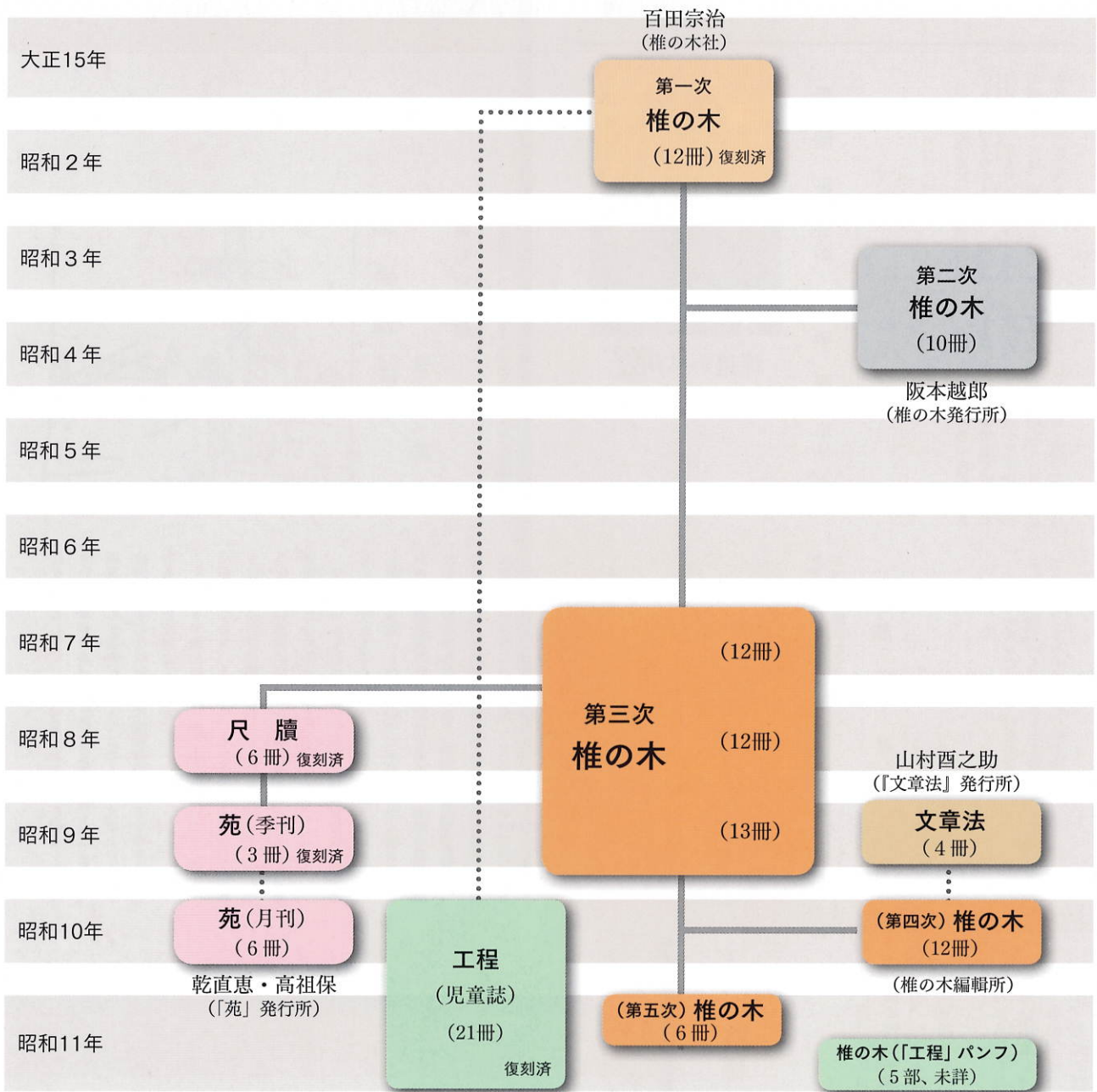
近代詩最後の光芒

山田兼士（大阪芸術大学教授）

「椎の木」復刻の意義を確認するために、これが刊行された昭和七年から十一年までの詩史上のおもな出来事を列挙しよう。三好達治『南窗集』丸山薫『帆・ランプ・鷗』西脇順三郎『Anbavald』の刊行、宮澤賢治の死、小野十三郎『古き世界の上に』萩原朔太郎『氷島』中原中也『山羊の歌』の刊行、伊東静雄『わがひとに與ふる哀歌』刊行と朔太郎の絶賛、それに対する小野十三郎の批判、「四季」「日本浪漫派」歷程の創刊、佐川ちかの死……。翌十二年に日中戦争が勃発する。大正モダニズムの余韻と戦争の予兆との間で、短くも激しい光芒を放った抒情精神の諸相を、何よりも雄弁に物語っているのが「椎の木」の作品群である。広く新人新鋭を起用しつつ、流派を越え主義を越えて円熟期の詩人たちを迎えることができたのは、終始一貫して主筆の位置にあった百田宗治の功績と見るべきだろう。

エリオット、ジャム、コクトー、シュルレアリスムといった同時代西洋文学の紹介や、佐川ちか、江間章子ら女性詩人の活躍も特筆すべきで、戦後の「現代詩」に直結する「近代詩」最後の輝きがここに凝縮している感がある。詩史的文学史的価値の高さは当然として、近代日本文化全般におよぶ精神的価値の高さにも注目すべきだろう。近代日本精神が到達しやがて破局に至った抒情の宿命を、今あらためて考察するための最良の下キムメントが「椎の木」全五十五冊なのである。

『椎の木』系譜略図



が今回の復刻範囲です。

椎の木 第一冊

室生 犀星	文学雑談	四
山内 義雄	野にそよぐ海風ブルースト	六
三好 達治	「田舎詩人の暦」から ジャム	七
伊藤 整	詩 カミングス	一〇
左川 ちか	望楽ジョイス	一一
竹中 郁	彼女は歩むデボルド	一二
三浦 隆藏	風景	一三
田澤 俊三	晩秋譜	一四
北河 好一	夜の表情	一五
高祖 保	軍隊手帖	一六
久米 徹	事件	一七
小杉 茂樹	睡眠	一八
莊生 春樹	道	一九
阿部 保	美しき胸壁	二〇
亞木 英二	夜霧	二一
澤木 陸子	印度風のテラース	二二
美木俊之介	海圖の航走	二三
左川 ちか	循環圖	二四
河原直一郎	FOSSIL REMAINS	二五
半谷 三郎	風	二六
丸山 薫		二七
室生 犀星	梅の花	二八
春山 行夫	anecdote	二九
三浦 隆藏	詩の筋について	三〇
山村西之助	天使の象徴	三一
岡崎 信男	赤服の精霊	三二
蘭口 收	祈願	三三
内田 忠	海の記憶	三四
城越健次郎	鴨	三五
永井善太郎	星譜	三六
楠田 一郎	復活	三七
牛場 公雄	甲蟲	三八
内田 克巳	體温	三九
黒中 一實	Profil	四〇
室川 創	撃つ	四一